

2024年3月期 第1四半期 決算説明資料

2023年4月～2023年6月（第195期第1四半期連結累計期間）

2023年 7月 27日

日本車輛製造株式会社

目次

1. 2024年3月期 第1四半期累計連結決算の概要
 - (1) 業績の要約
 - (2) セグメント別業績

2. 2024年3月期 連結通期業績見通し

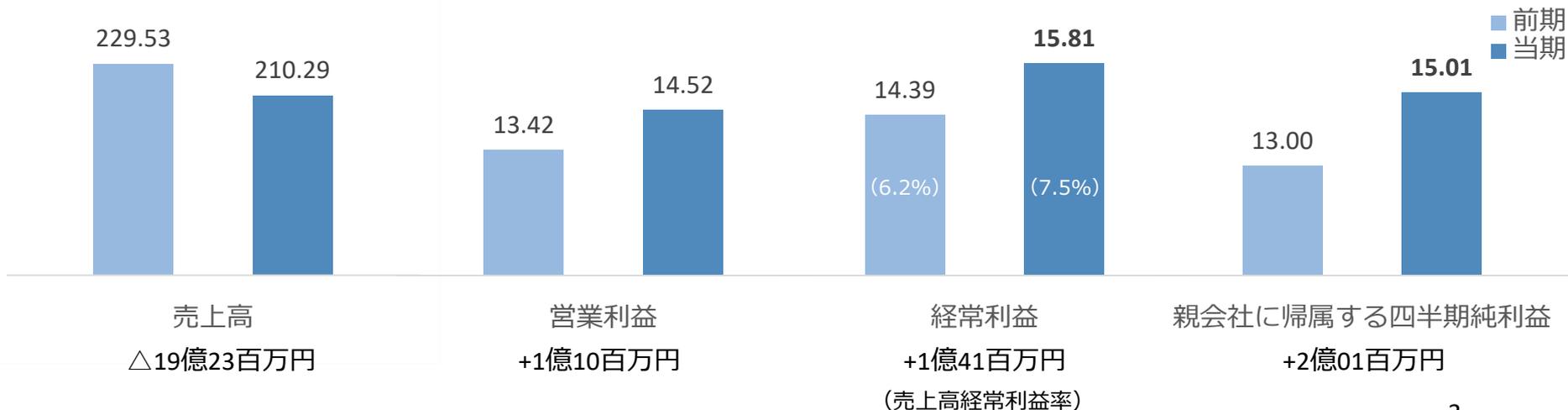
業績の概要（2024年3月期 第1四半期累計期間）

売上：輸送用機器・鉄構事業の増収の一方で、鉄道車両事業、建設機械事業、エンジニアリング事業の減収により、2期ぶりの減収

利益：鉄道車両事業、建設機械事業の減益の一方で、輸送用機器・鉄構事業が黒字化したことなどにより、2期連続の増益

売上高	210億29百万円	営業利益	14億52百万円
経常利益	15億81百万円	親会社株主に帰属する 四半期純利益	15億01百万円

(単位：億円)



セグメント別業績（2024年3月期）

（単位：億円）

	売上高			営業損益		
	前年同 四半期	当第1 四半期	増減	前年同 四半期	当第1 四半期	増減
鉄道車両	130.75	110.39	△20.35	11.57	6.34	△5.23
輸送用機器・鉄構	34.22	44.30	+10.07	△1.55	2.59	+4.15
建設機械	48.75	43.38	△5.37	9.01	7.86	△1.15
エンジニアリング	15.64	12.05	△3.58	△1.03	△1.03	+0.00
その他/調整額	0.15	0.16	+0.00	△4.57	△1.24	+3.33
合計	229.53	210.29	△19.23	13.42	14.52	+1.10

※ 「調整額」は、セグメントに帰属しない一般管理費、セグメント間取引消去などを含んでいる

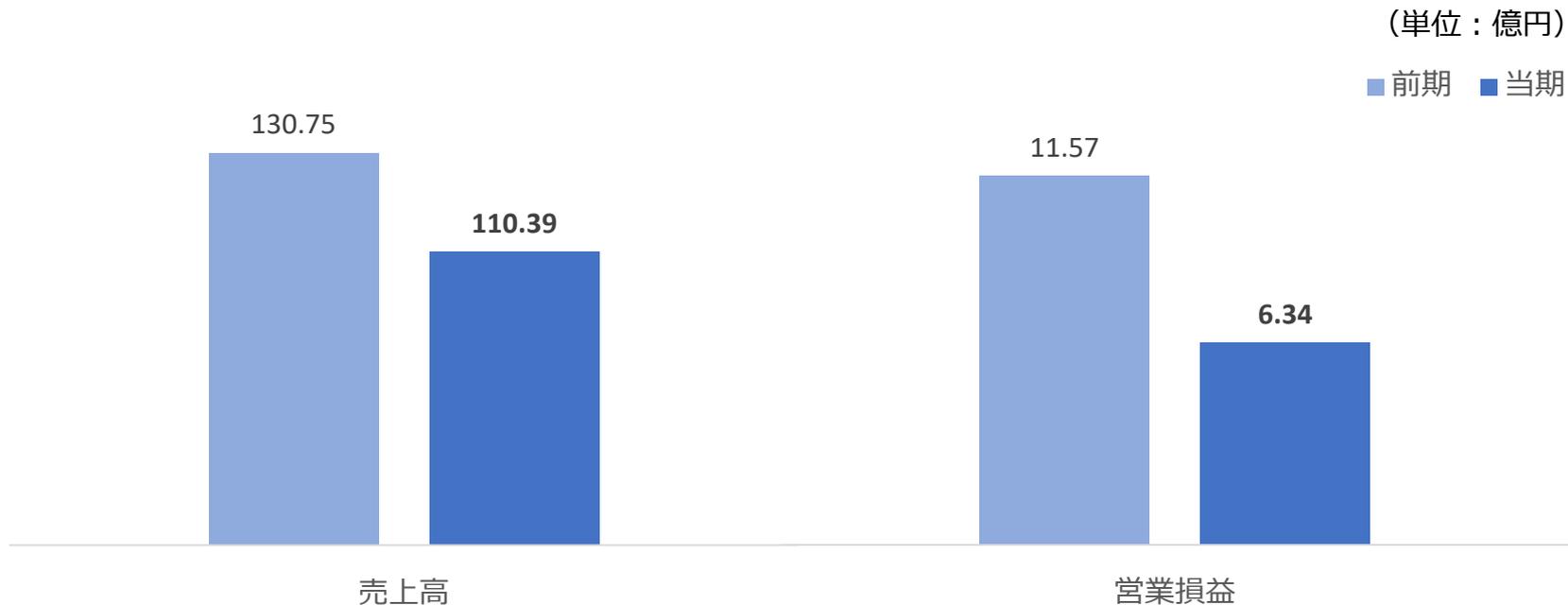
鉄道車両事業

<売上高>

- ▶ J R東海向けN 7 0 0 S新幹線電車や3 1 5系電車、H C 8 5系特急型車両のほか、名古屋鉄道向け電車、新京成電鉄向け電車などの売上があり、J R向け車両の売上が減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- ▶ 主に減収により減益。



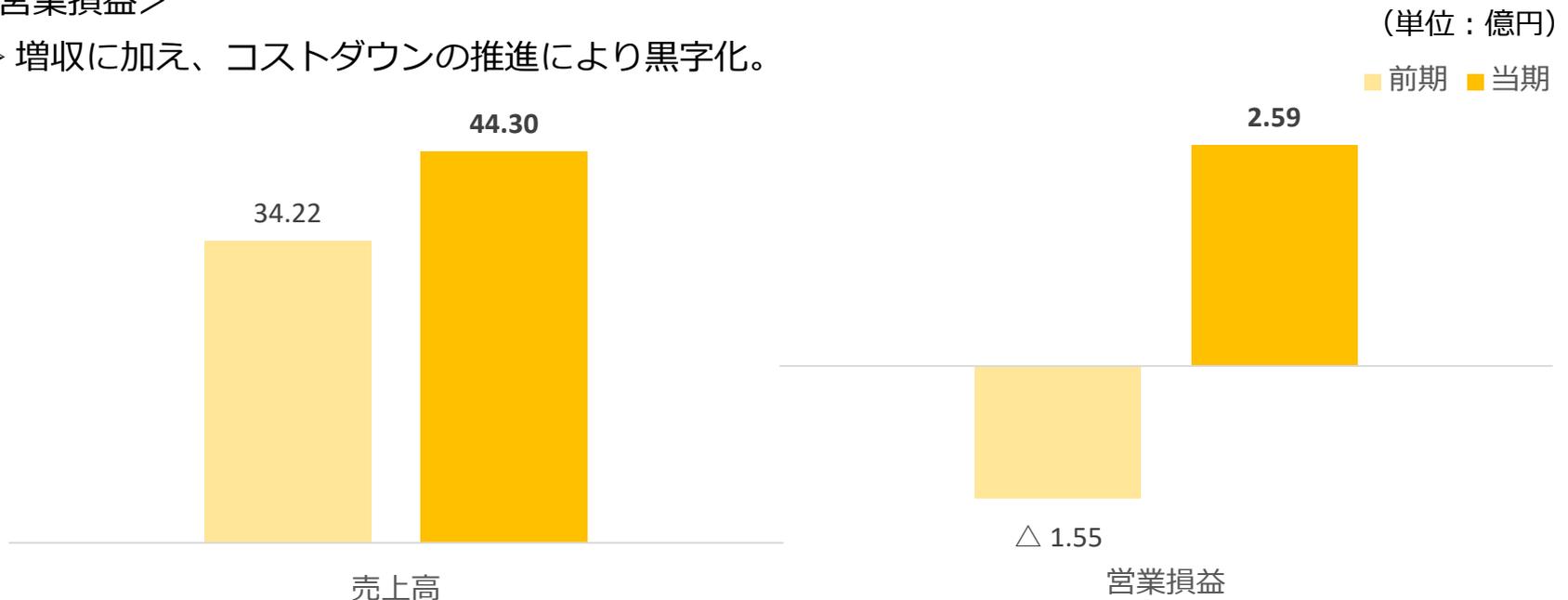
輸送用機器・鉄構事業

<売上高>

- 輸送用機器は、民生用バルクローリ、大型自走式キャリヤ、無人搬送装置、貨車などの売上があり、無人搬送装置、民生用バルクローリの売上が増加したことなどにより増収。
- 鉄構は、佐世保道路須崎橋、三遠道路1号橋などの売上があり、道路橋の売上が増加したことなどにより増収。
- 事業全体で増収。

<営業損益>

- 増収に加え、コストダウンの推進により黒字化。



建設機械事業

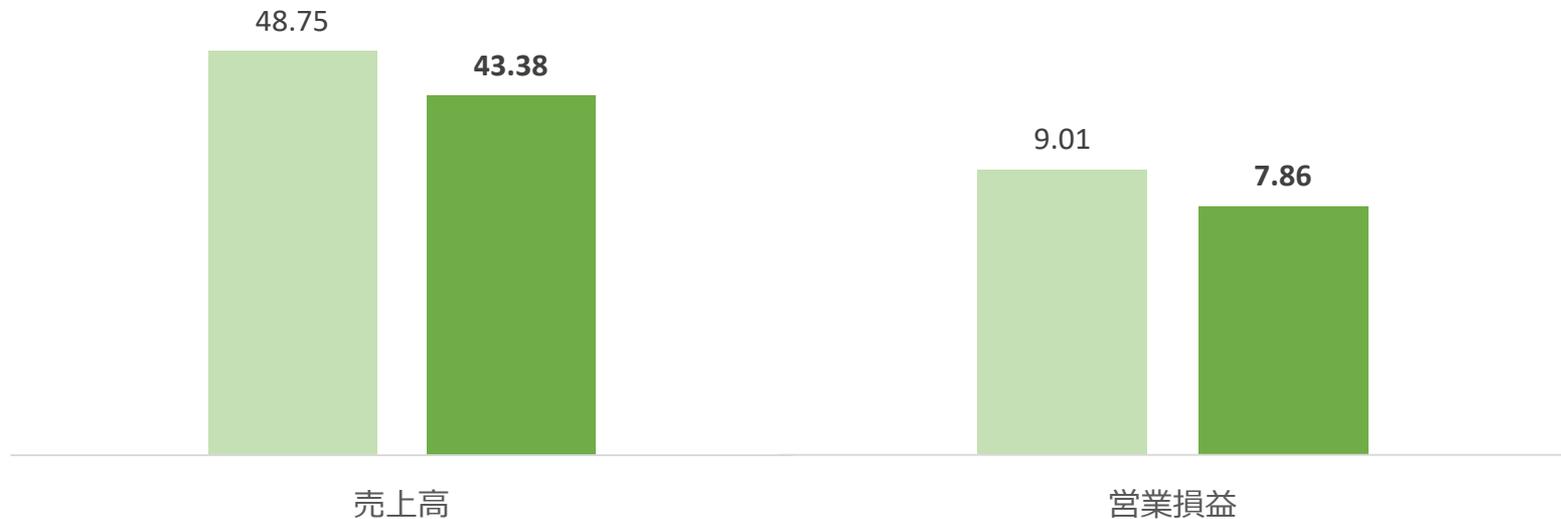
<売上高>

- ▶ 大型杭打機、全回転チュービング装置、小型杭打機などの売上があり需要は堅調に推移しているが、海外向け大型杭打機の売上が出荷日の関係から減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- ▶ 主に減収により減益。

(単位：億円)
■ 前期 ■ 当期



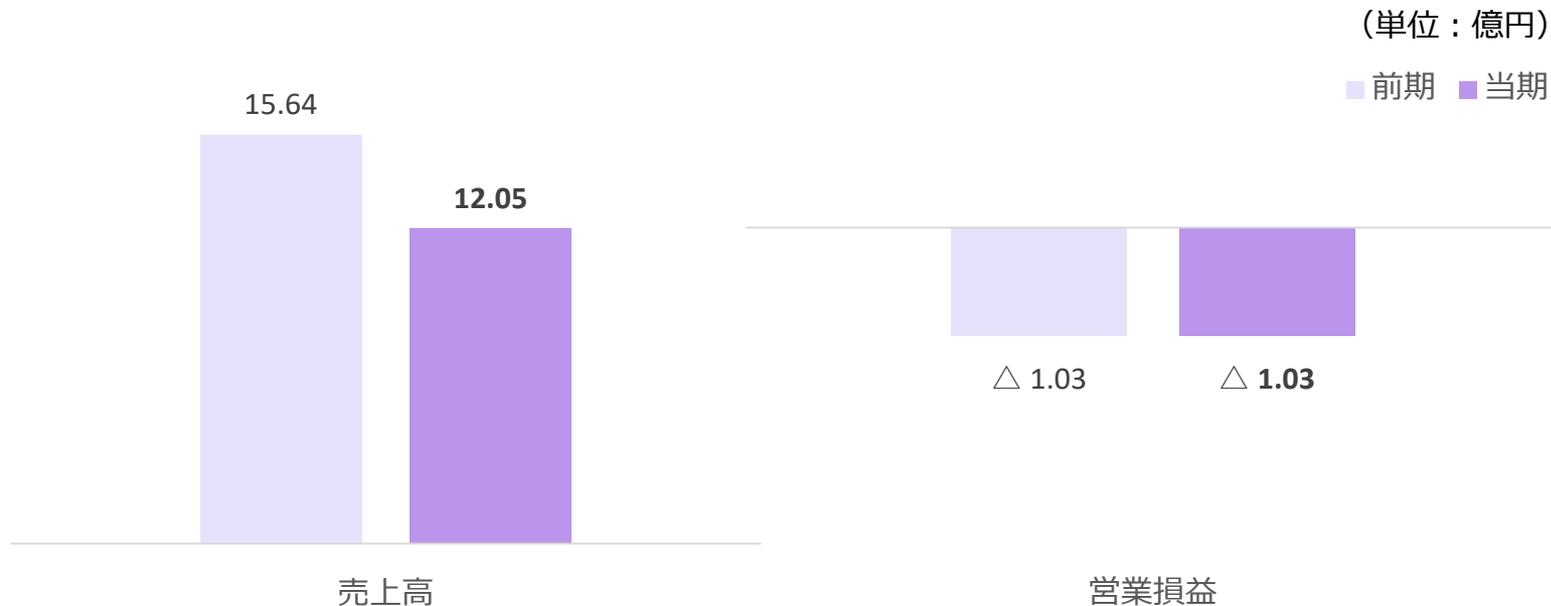
エンジニアリング事業

<売上高>

- ▶ 鉄道事業者向け機械設備のほか、家庭紙メーカー向け製造設備、各地のJ A向け営農プラントなどの売上があり、鉄道事業者向け機械設備の売上が減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- ▶ 減収ではあったものの、前期並み。



2024年3月期 連結通期業績見通し

- 売上高**：輸送用機器・鉄構事業、建設機械事業の増収の一方で、鉄道車両事業、エンジニアリング事業の減収により減収となる見通し
- 利益**：減収見通しを踏まえてコストダウンの更なる推進など経営改善の取組みを進めることなどにより、概ね前期並みとなる見通し

※前回（2023年4月25日付）公表した予想値から変更はありません。

売上高 880億円

営業利益 41億円

（単位：億円）

経常利益 42億円

親会社株主に帰属する
当期純利益 32億円

■ 2023年3月期実績
■ 2024年3月期見通し

979.69

880.00

44.61

41.00

44.94

42.00

31.18

32.00

売上高

営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する当期純利益

日本車両

※本資料の業績見通しに記載されている将来の数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。